

**魚種（海域）：マイワシ（主として太平洋海域）**

担当：釧路水産試験場（山口浩志），函館水産試験場（渡野邊雅道）

**要約**

評価年度：2019年度（2019年1月～2019年12月）

2019年度の漁獲量：241,304トン（前年比1.51）

来遊量の指標	全国の資源水準※	北海道への来遊水準
漁獲量	中水準	中水準

※全国の資源水準は2018年度の水準

北海道周辺のマイワシの漁獲量は1975年には1.1万トンであったが、1980年代にかけて急激に増加し120万トン前後になった。1990年代に入ると漁獲量は急減し、1994年以降は道東海域にまき網漁場が形成されなくなった。2011年には、18年ぶりに道東海域にまき網漁場が形成され漁獲量は急増し、2019年には24.1万トンとなった。近年の道東海域への来遊資源の増加は、2010年以降比較的良好な加入が継続したこと、および漁獲圧が減少したことにより、マイワシ太平洋系群全体の資源量が増加したことに起因している。

**1. 資源の分布・生態的特徴****(1) 分布・回遊**

幼稚魚の分布・回遊は、生育初期の海流による輸送によって大きく2つの様式に分けられる。黒潮周辺でふ化後、沿岸域への流れにとりこまれて本邦沿岸域で成長し、沿岸漁場でシラス～幼魚期から漁獲対象となるもの（沿岸加入群）、および黒潮によって東方へ移送され、本邦近海から東経165～170度に及ぶ黒潮親潮移行域で成長して道東～千島列島東方沖の亜寒帯域で夏季の索時期を過ごし、秋冬季に南下して漁場に参加するもの（沖合加入群）がある<sup>1)</sup>。沖合加入群の分布範囲は海流による移送に依存するため、加入量の多寡を反映せず、加入量が低くても広域に分布する。沿岸と沖合のいずれの加入群になるかは、産卵場周辺の海況条件によって決まると考えられる<sup>2)</sup>。

**(2) 年齢・成長（加齢の基準日：1月1日）**

満年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
体長(cm) <sup>*)</sup>	12	16	19	20	21	23
体重(g) <sup>*)</sup>	22.1	49.8	91.6	112.1	124.5	153.4

・寿命は7歳程度<sup>2)</sup>。・年齢と体長の関係は、海域による違いもあるが、資源水準により大きく変化する<sup>2)</sup>。

\*) 各年齢の体長と体重は、2013～2015年（9～10月）の釧路水試による漁獲物測定結果の平均値。

### (3) 成熟年齢・成熟体長

資源高水準期には成長速度が低下して成熟が遅れたが、近年は1歳で成熟が始まり、2歳ではほとんどの個体が成熟する<sup>2)</sup>。

### (4) 産卵期・産卵場

卵の出現状況から、産卵期は11～翌年6月、盛期は2～4月である。産卵場は資源水準により変化し、1990年代以降は四国沖から関東近海の各地の黒潮内側域に形成されている<sup>2)</sup>。

## 2. 漁業の概要

### (1) 操業実勢

漁業	漁期	主漁場	主要な漁具	着業規模（2019年度）
大臣承認漁業 大中型まき網漁業	6～10月	道東太平洋海域	まき網	24船団
沿岸漁業 定置網漁業	6～11月	渡島管内の噴火湾内 および太平洋海域	定置網	
さば・いわし棒受け網漁業	5～9月	道東太平洋海域	棒受け網	
自由漁業（タモすくい）	5～11月	道東太平洋海域	たも網	

マイワシ資源の高水準期には大中型まき網漁業が主に道東太平洋海域で行われ、十勝・釧路・根室管内へ水揚げされる。沿岸漁業では主に道南海域（渡島管内）で定置網漁業によって漁獲されている。近年は、小型さんま漁船によるいわし棒受け網漁業（試験操業）やロシア200海里水域さけ・ます流し網漁業の代替としてさば・いわし棒受け網漁業（試験操業）によっても釧路や根室管内に水揚げされている。

### (2) 資源管理に関する取り組み

1997年よりTAC対象種に指定されており、漁獲量が管理されている（表1）。

## 3. 漁獲量および漁獲努力量の推移

### (1) 漁獲量

**全国** 全国におけるマイワシの1975年の漁獲量は52.6万トンであった（表2、図1）。それ以降、漁獲量は増加傾向となり、1988年には過去最高の449万トンを記録した。その後急減し、2002年以降は10万トン以下の少ない漁獲量で2010年まで推移した。2011年には漁獲量が17.6万トンと再び10万トンを超え増加傾向となり、2017年には22年ぶりに50万トンを超え、2019年は53.5万トンとなった。

**北海道** 北海道周辺での漁獲量は、全国と同様に1980年代後半にかけてまき網漁業により増加し、1987年には133万トンに達し、その後急減した（表3、図2）。1994～2010年

はまき網漁業の操業はなく、沿岸漁業による漁獲のみであった。2011年にははまき網漁業が再開され、漁獲量は増加傾向となり、2017年には漁獲量が10万トンを超え、2019年には前年よりも大幅に増加して24.1万トンとなった。

沿岸漁業については、1980年代は漁獲量が常に5万トンを超えており、最高値は1985年の17.6万トンであった(図3)。また、漁獲のほとんどは道南海域だが、1980年代には津軽海峡での漁獲も多くみられた(図3, 4)。近年では、2011年に1千トンを超えるようになり、2014年には道南海域を中心に漁獲が伸び1.8万トン、2016年からは道東海域での棒受網による漁獲も伸びて、2019年は2.3万トンであった(図3)。

2019年の北海道への水揚げ金額は62億円であった。

## (2) 漁獲努力量

はまき網漁業は、2011年以降に道東海域で操業を再開するようになった。網数は船団数の増加に伴って増加し、2015年以降24船団が道東海域で操業するようになってからも、年々増加し、2019年には24船団で1,309回となった(表4)。

## 4. 資源状態

### (1) 現在までの資源動向：マイワシ太平洋系群の資源の推移

北海道周辺海域には太平洋系群と対馬暖流系群が来遊し、漁獲量は太平洋沿岸が大部分を占めていることから(表3)、資源動向の判断には、太平洋系群の資源状態が重要となる。太平洋系群の資源状態は、1980年代には1,000万トンを超える資源量を維持していたが、1990年代に入って急減し、2002～2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した<sup>2)</sup>(図5)。2010～2014年に比較的良好な加入が続いたこと、漁獲圧が低下したことにより、資源量は増加傾向となり、2014年には100万トンを上回った。その後も良好な加入が続いたことから、資源量はさらに増加し、2018年は348万トン(親魚量163万トン)と推定された<sup>2)</sup>。また、2018年級の加入量は、現時点では不確実性は大きいですが、各種調査における資源量指数をみても近年においてははかかなり多いとされている。資源水準は1996年の親魚量(221千トン)以上で、さらに成魚の索餌回遊が三陸北部以北の親潮域までみられるような水準である中位とされ、動向は増加と判断されている<sup>2)</sup>。

## 5. 北海道への来遊状況

### (1) 漁獲動向

北海道の漁獲量は1980年代には100万トンを超えていたが、1990年代に急減し、1999～2010年まで漁獲量が5千トンを下まわる状況が続いた(表3, 図2)。その後、2011年に5千トンを超え、太平洋系群の資源水準が低位から中位となった2012年には7千トン、2013年以降も増加傾向となっている(表3, 図2)。このように、北海道の漁獲動向は太平洋系群の資源動向と類似しており、最近の漁獲量の増加は、資源量の増加にともなって1歳以上の資源が三陸以北に索餌回遊域を広げた結果と推察できる。なお、2011年以降の道東海域で

のまき網漁業における CPUE (漁獲量/有漁網数) は、104~442 トン/網の範囲となっており、2019 年は 167 トン/網と CPUE が極端に高かった 2013 年を除くと比較的高い値であった (表 4)。

次に、2019 年の北海道で漁獲されたマイワシの年齢組成をみると、まき網漁業は 6 月下旬~10 月に操業を行い、0~4 歳魚が漁獲されたが、前年に引き続き 2017 年級群となる 2 歳と 2018 年級となる 1 歳が主体 (合わせて全体の 81%) であった (図 6)。棒受網およびたもすくい漁業は 5 月~10 月に道東沿岸で操業を行い、2017 年までは 2 歳魚が主体であったが、2019 年は 2 歳魚に加えて 1 歳魚の割合も高くなった (図 7)。一方で、道南海域では定置網などにより 9 月以降に 0 歳魚主体で混獲された (図 8)。このように、北海道へ来遊状況は、海域間で差があり、道東海域には 1 歳以上の主に産卵後の索餌回遊群が来遊し、道南海域では、これらの索餌回遊群に加えて秋冬季に加入する群<sup>1)</sup> が来遊し漁獲されていると考えられる。

## (2) 調査船調査

試験調査船北辰丸による流し網調査は、1994 年から 6 月の漁期前調査と 9 月の漁期中調査が行われている。6 月の漁期前調査は北上期の分布の特徴をとらえるために実施しており (図 9)、これまでの調査結果から表面水温が 12~14℃と比較的低い北海道に近い北の海域では体長 20cm 以上の大型魚が主体に分布する特徴が認められた<sup>3)</sup>。9 月の漁期中調査は道東海域のまき網漁場周辺における漁場形成の特徴を捉えることを目的に実施している (図 10)。2014 年の 9 月の漁期中調査では、0 歳魚 (2014 年級) が高い割合で漁獲され (図 12)、翌年以降の 6 月の漁期前調査および 9 月の漁期中調査でもその年級が高い割合を占めていた (図 11, 図 12)。また、2017 年の 9 月の漁期中調査でも、0 歳魚 (2017 年級) が出現し (図 12)、同様に、翌年以降の漁期前調査および 9 月の漁期中調査でも継続して漁獲された (図 11, 図 12)。ただし、流し網調査で確認されたこれらの特徴的な年級は、太平洋系群全体の加入量の多寡とは一致していない<sup>2)</sup>。また、2019 年の調査結果から 2017 年級の成長が遅くなっている状況が確認できる (図 11, 図 12)。

流し網調査による 1994 年以降の 1 歳以上の CPUE は、漁期前調査では、2009 年までは非常に低い値で推移したが、2010 年に増加し始めた (図 13)。流し網調査の CPUE が増加し始めた時期は、三陸沖合域まで分布を広げた時期と一致している<sup>2)</sup>。2013 年以降はおおむね 1,000 (尾/回) を超える高い値で推移し、2019 年にはさらに増加し、約 5,000 (尾/回) になった。漁期中調査では、漁期前調査よりやや遅れて 2012 年以降に CPUE が高くなった。2013 年以降は漁期前調査よりも低い値で推移したが、2018 年以降急増し 2019 年には約 6,000 (尾/回) となった。

## (3) 2019 年度の北海道への来遊水準：中水準

道東海域において、マイワシを漁獲対象とした大中型まき網漁業による操業が行われていた期間を含む 1985 年~2014 年までの 30 年間の北海道周辺海域における漁獲量の平均値

(270,510トン)を100として標準化した。漁獲量の変動幅が大きいことを考慮して100±70の範囲を中水準、その上下をそれぞれ高水準、低水準とした。2019年の来遊水準指数は89となり中水準と判断された(図14)。

#### **(4) 今後の動向：増加**

太平洋系群では2010年以降加入量が増加しはじめ、2014年以降には200億尾を上回る加入が継続している<sup>2)</sup>。2019年の漁獲の主体となった2017年級が3歳として引き続き漁獲されるとともに、近年において高い加入水準であると予想されている2018年級群が2歳として漁獲の主体となると予想される。以上のことから、2020年の北海道太平洋海域への来遊量は増加すると考えられる。

**(1) 資源評価に用いた漁獲統計**

漁獲量 全国 太平洋系群 対馬暖流系群 年齢別資源重量	農林水産統計（漁業・養殖業生産統計：各県別漁獲量） <sup>4)</sup> 我が国周辺水域の漁業資源評価書 <sup>2)</sup> 太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料 <sup>5)</sup> （2019年） 我が国周辺水域の漁業資源評価書 <sup>6)</sup> 我が国周辺水域の漁業資源評価書 <sup>2)</sup>
北海道の漁獲量	北海道水産現勢と漁業生産高報告（1971～2018年）および水試集計速報値（2019年）（大中型まき網漁業分を除く） 集計範囲は八雲町熊石地区（旧熊石町）を除く渡島～根室振興局
道東太平洋の漁獲量 （まき網漁業）	北海道まき網漁業協会資料

**(2) 漁船の努力量および CPUE**

北海道まき網漁業協会資料による。

**(3) 調査船による CPUE と漁獲物**

調査船調査は、北海道太平洋海域へのサバ・イワシ類の来遊状況を把握するために、釧路水試所属の試験調査船北辰丸により、6月と9月に道東太平洋～三陸沖合太平洋海域において実施している。調査は表層流し網を用い、網の目合と反数は、2016年より82,182mmを各1反追加し、22, 25, 55, 63, 72mmが各1反、29, 37mmが各4反、48, 82mmが2反、182mmが16反とした。操業は17:00投網、04:00揚網として回数は各年4～9回で、1操業あたりの総漁獲尾数の平均値をCPUEとして来遊状況の指標とした。また、漁獲物は一部抽出して被鱗体長、体重、鱗の年齢査定など精密測定を行い資料とした。

**(4) 漁獲物の被鱗体長および年齢組成**

道東太平洋海域のまき網漁業、棒受網漁業、たもすくい漁業、道南太平洋海域の定置網漁業および調査船調査で漁獲されたマイワシについて漁獲物測定を実施して、北海道太平洋海域へ来遊したマイワシの体長および年齢組成を把握した。なお、年齢査定は鱗を用いて行った。

**文 献**

- 1) 川端 淳, 西田 宏, 高木香織, 高橋正知, 中神正康, 巢山 哲, 上野康弘, 納谷美也子, 山下夕帆: 北西太平洋におけるマイワシ0～1歳魚の季節的分布回遊. 平成21年度資源

- 評価調査成果報告書・第59回サンマ等小型浮魚資源研究会議報告, 189-194 (2011)
- 2) 古市生, 由上龍嗣, 上村泰洋, 林 晃, 井須小羊子, 渡部亮介: 令和元年度(2019)マイワシ太平洋群の資源評価. 令和元年度我が国周辺水域の漁業資源評価 第1分冊. 東京, 水産庁増殖推進部・独立行政法人水産総合研究センター, 印刷中 (2020)
  - 3) 板谷和彦, 坂口健司: 近年のマイワシ資源増加期の道東海域における来遊の特徴. 月刊海洋, 51, 310-314 (2019)
  - 4) 農林水産省: 農林水産統計 令和元年漁業・養殖業生産統計 (第1報) (2020)
  - 5) 中央水産研究所ほか: 令和元年度第3回太平洋マイワシ漁海況予報会議資料. (2019)
  - 6) 高橋素光, 黒田啓行, 依田真里, 竹垣草世香, 安田十也: 令和元年度(2019)マイワシ対馬暖流系群の資源評価. 令和元年度我が国周辺水域の漁業資源評価 第1分冊. 東京, 水産庁増殖推進部・独立行政法人水産総合研究センター, 印刷中 (2020)

表1 マイワシのTACの推移

単位：トン

年		全国	大臣管理分	北海道	年		全国	大臣管理分	北海道
西暦	元号	合計	(大中型まき網)	知事管理分	西暦	元号	合計	(大中型まき網)	知事管理分
1997	H9	720,000	390,000	若干量	2009	H21	61,000	35,000	若干量
1998	H10	520,000	280,000	若干量	2010	H22	102,000	58,000	若干量
1999	H11	400,000	240,000	若干量	2011	H23	209,000	119,000	若干量
2000	H12	380,000	200,000	若干量	2012	H24	245,000	128,000	若干量
2001	H13	380,000	200,000	若干量	2013	H25	388,000	203,000	若干量
2002	H14	342,000	181,000	若干量	2014	H26	429,000	225,000	若干量
2003	H15	100,000	若干量	若干量	2015	H27	435,000	223,000	若干量
2004	H16	70,000	若干量	若干量	2016	H28	804,000	339,000	若干量
2005	H17	60,000	45,000	若干量	2017	H29	856,000	407,000	若干量
2006	H18	60,000	43,000	若干量	2018	H30	800,000	302,000	若干量
2007	H19	60,000	43,000	若干量	2019	H31/R1	1,361,000	491,000	56,000
2008	H20	52,000	29,000	若干量	2020	R2	1,516,000	584,000	65,000

集計期間：暦年（1～12月）

2020年の内訳（日本海海域10.8万トン，太平洋海域140.8万トン）

表2 日本周辺海域のマイワシの漁獲量の推移

単位：万トン

年	全国	太平洋系群	対馬暖流系群	年	全国	太平洋系群	対馬暖流系群	年	全国	太平洋系群	対馬暖流系群
1975	52.6	43.0	9.6	1990	367.8	216.2	150.5	2005	2.8	2.5	0.3
1976	106.6	75.6	30.9	1991	301.0	172.4	128.1	2006	5.3	4.9	0.3
1977	142.0	99.1	42.9	1992	222.4	124.0	97.5	2007	7.9	6.5	1.4
1978	163.7	114.9	48.7	1993	171.4	79.1	91.7	2008	3.5	2.7	0.8
1979	181.7	108.9	72.7	1994	118.9	42.5	75.8	2009	5.7	4.9	0.8
1980	219.8	144.5	75.1	1995	66.1	33.2	36.6	2010	7.0	6.5	0.6
1981	308.9	229.6	79.1	1996	31.9	18.1	15.6	2011	17.6	13.2	4.4
1982	329.0	241.9	86.9	1997	28.4	25.5	2.6	2012	13.5	10.2	3.8
1983	374.5	272.5	101.7	1998	16.7	14.2	2.5	2013	21.5	13.0	8.5
1984	417.9	287.0	127.8	1999	35.1	30.8	4.1	2014	19.6	18.6	0.9
1985	386.6	264.4	119.1	2000	15.0	13.9	0.8	2015	31.1	27.0	7.0
1986	421.0	268.5	148.6	2001	17.8	17.7	0.1	2016	37.8	31.6	6.2
1987	436.2	291.6	141.2	2002	5.0	4.9	0.1	2017	50.0	44.6	5.4
1988	448.8	283.8	160.6	2003	5.8	5.1	0.1	2018	52.2	45.1	7.1
1989	409.9	252.4	154.6	2004	5.0	4.8	0.2	2019	53.5	52.8	

①全国漁獲量：農林統計（漁業・養殖業生産統計）

②太平洋系群・対馬暖流系群：我が国周辺水域の漁業資源評価書（太平洋系群2019年はマイワシ太平洋系群漁況予報会議資料）

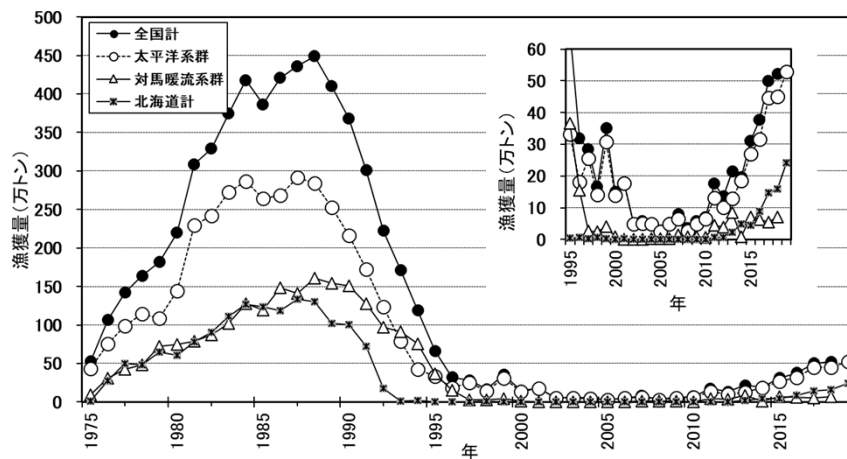


図1 全国および北海道におけるマイワシの漁獲量の推移



表3 北海道周辺のマイワシの漁獲量

年	北海道周辺海域(単位:トン)											まき網 漁業	全道 計		
	沿岸漁業														
	石狩	後志	檜山	渡島	胆振	日高	十勝	釧路	根室	オホーツク	宗谷			留萌	
1975		23	9	10,258	255	92	10	8				5	501	11,161	
1976		99	1	9,605	182	34	18	1,803	1,583			2	0	259,867	273,194
1977		609	3	18,285	262	219	38	1,991	308	0	93	18		481,645	503,471
1978		829	0	21,066	783	24	77	185	235	20	103	21		456,751	480,094
1979		768	10	27,852	1,234	1	4	75	517	26	324	6		616,938	647,755
1980	3	546	1	47,694	2,275	20	19	509	469	10	209	30		553,518	605,303
1981	5	446	2	74,428	2,514	34	48	172	23	754	102	4		705,738	784,270
1982	4	354	1	85,765	1,765	10	41	8,875	36	669	355	30		804,979	902,884
1983	5	108	2	97,792	1,785	15	83	655	998	3,292	230	25		1,007,906	1,112,896
1984	11	228	9	89,735	990	2,323	50	9,271	1,256	1,622	378	140		1,164,533	1,270,546
1985	34	174	14	166,621	949	37	14	822	699	5,600	812	103		1,062,808	1,238,687
1986	74	110	1	78,278	187	24	7	37	639	6,921	462	1,645		1,094,085	1,182,470
1987	18	293	2	102,460	397	9	1	49	816	7,596	1,470	1,839		1,218,983	1,333,933
1988	1	185	18	98,021	397	42	12	446	1,419	7,617	1,765	2,374		1,185,997	1,298,294
1989	1	230	11	86,708	198	62	8	639	509	9,780	189	1,808		918,929	1,019,072
1990	6	176	1	31,407	70	87	3	180	278	3,307	513	915		963,455	1,000,398
1991	7	208	0	42,143	57	21	46	349	501	907	416	87		674,580	719,322
1992	5	170	4	31,016	242	33	19	192	45	1,297	367	466		140,014	173,870
1993	0	86	0	13,328	26	13	1	3	15	5	2	33		1,145	14,657
1994	0	21	1	19,741	34	4	0	2	7	0	0	3			19,813
1995		56		4,237	7	2	0	1	0	3	31	43			4,380
1996		2	0	5,715	16	2	1	0	0	0		0			5,736
1997		2	0	2,146	15			0	5	0	0	0			2,168
1998		2		7,193	27	1	0	56	20	1		0			7,299
1999	0	18		2,972	7	0	0	0	1	0		0			2,999
2000	0	2		749	3	0			0	17	0				771
2001		15		3,338	12	0	1	0	0	153	0	0			3,519
2002		4	1	851	10	0	0	0	0	622	0				1,490
2003		4		351	3	1	0		0	68	0	0			427
2004		2	2	281	7	0	0	0	0	0					291
2005		0		75	13	0			0	0	0				89
2006		0		466	7	0	0	0	1	0	0				475
2007		7	0	277	2		0	7	1						294
2008	5	3	0	86	3	0	0	0	0	0		0			96
2009		2		255	1	0		2	4						264
2010	0	2		515	1	0		0	0						519
2011	24	5		3,800	2	1	0	1	11	25	0	0		1,988	5,856
2012	20	8	0	556	1	2	0	57	7	1				6,325	6,976
2013	39	14	3	4,929	3	3	1	166	15	2	0	0		17,676	22,851
2014	0	9	0	18,097	2	9	0	178	2					29,991	48,289
2015	2	19	0	7,846	3	3	1	580	166	0	3			37,035	45,657
2016	0	19	1	1,350	1	1	12	2,358	3,404					82,298	89,445
2017		0	3	13,277	0	0	34	5,941	5,385					121,820	146,461
2018	5	31	3	6,031	1	4	24	9,528	5,070	32	1			138,691	159,421
2019		0	0	2,176	2	1	14	9,223	11,717	0				218,171	241,304

①沿岸:北海道水産現勢, 漁業生産高報告, 2019年は水試集計速報値(まき網漁業を除く全漁業の1~12月の集計値)

②まき網漁業:北海道まき網漁業協会資料(道東海域で操業したまき網による漁獲量の合計値)

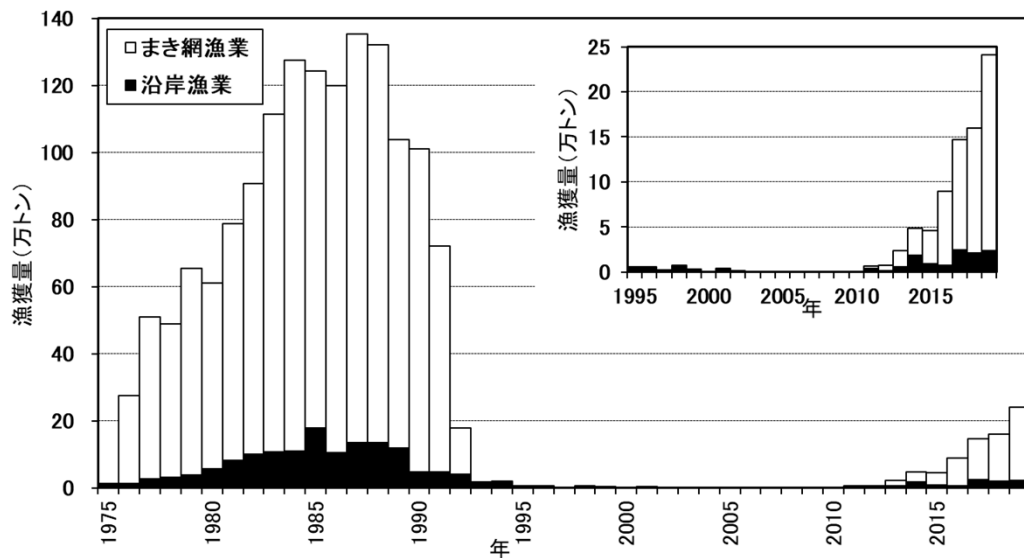


図2 北海道周辺海域のまき網漁業と沿岸漁業によるマイワシの漁獲量の推移

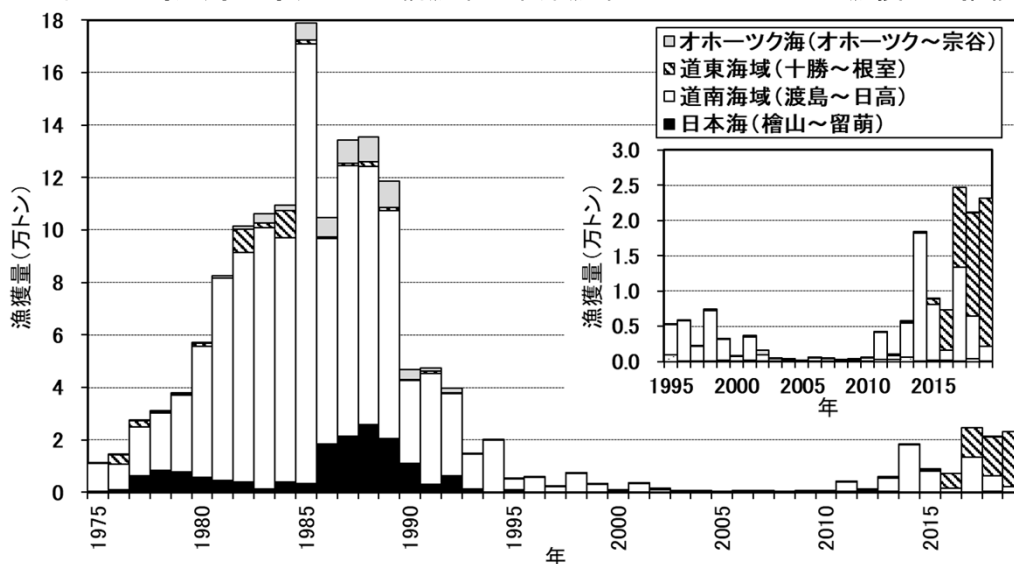


図3 北海道周辺海域の沿岸漁業のマイワシの海域別漁獲量の推移

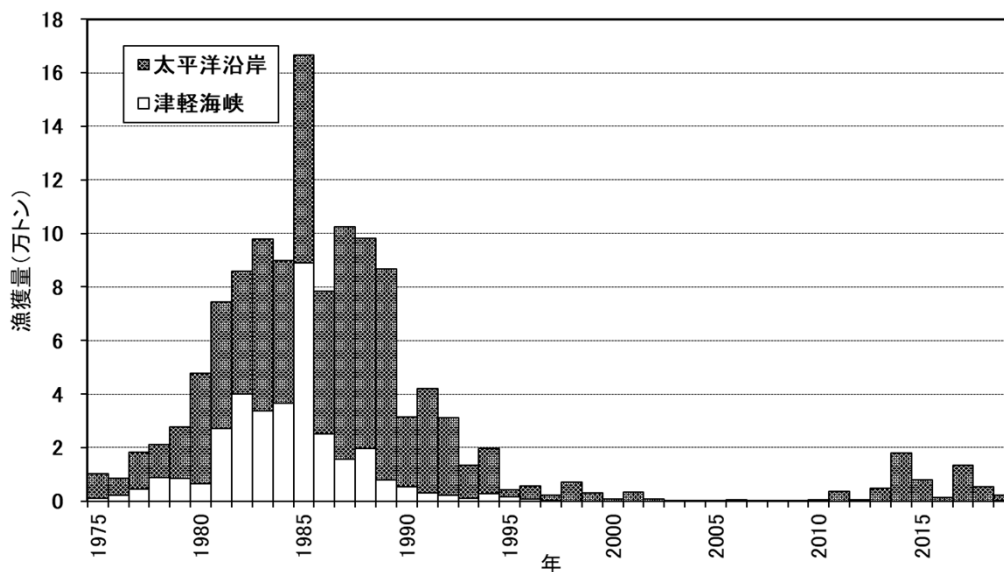


図4 渡島振興局管内における太平洋沿岸と津軽海峡でのマイワシの漁獲量の推移

表4 道東海域で着業したまき網漁業の船団数, 有漁網数およびCPUEの経年変化

年	船団数	網数	CPUE(トン/網)	参考: 網数(サバ類狙)
2011	1	14	142	0
2012	2	45	141	192
2013	4	40	442	293
2014	17	247	121	403
2015	24	355	104	371
2016	24	523	157	386
2017	24	659	185	177
2018	24	879	158	101
2019	24	1,309	167	6

※船団数は道東海域で操業した数, 網数はマイワシ有漁網数

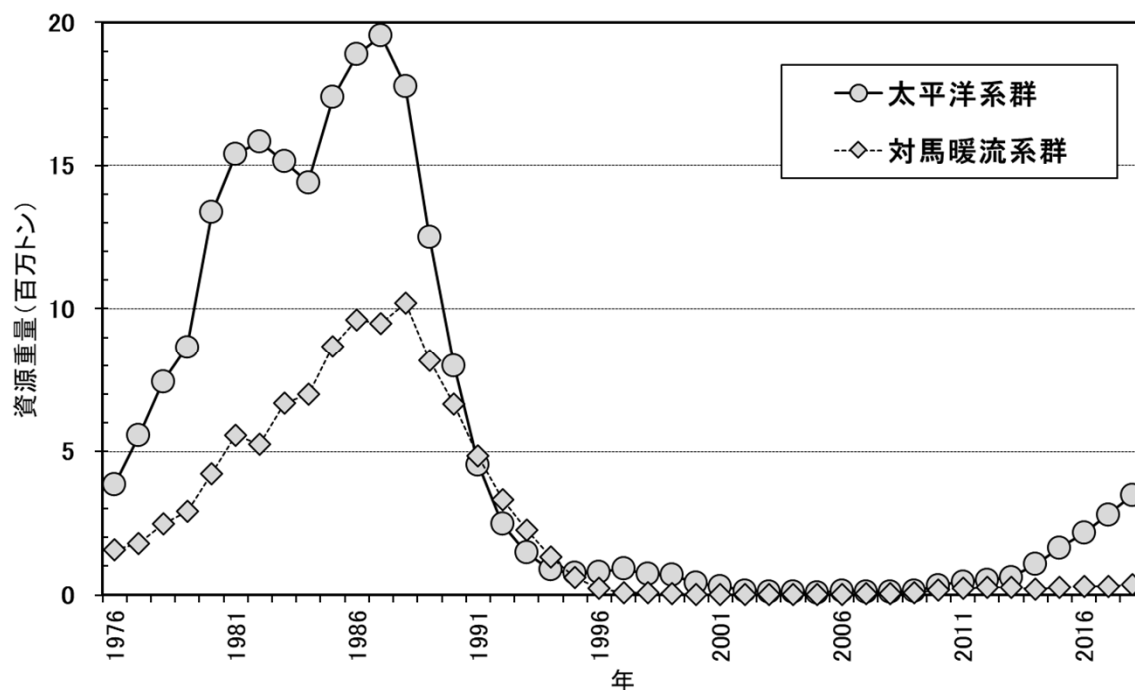


図5 マイワシ太平洋系群および対馬暖流系群の資源重量の推移  
(資料: 我が国資源評価調査<sup>2)</sup>)

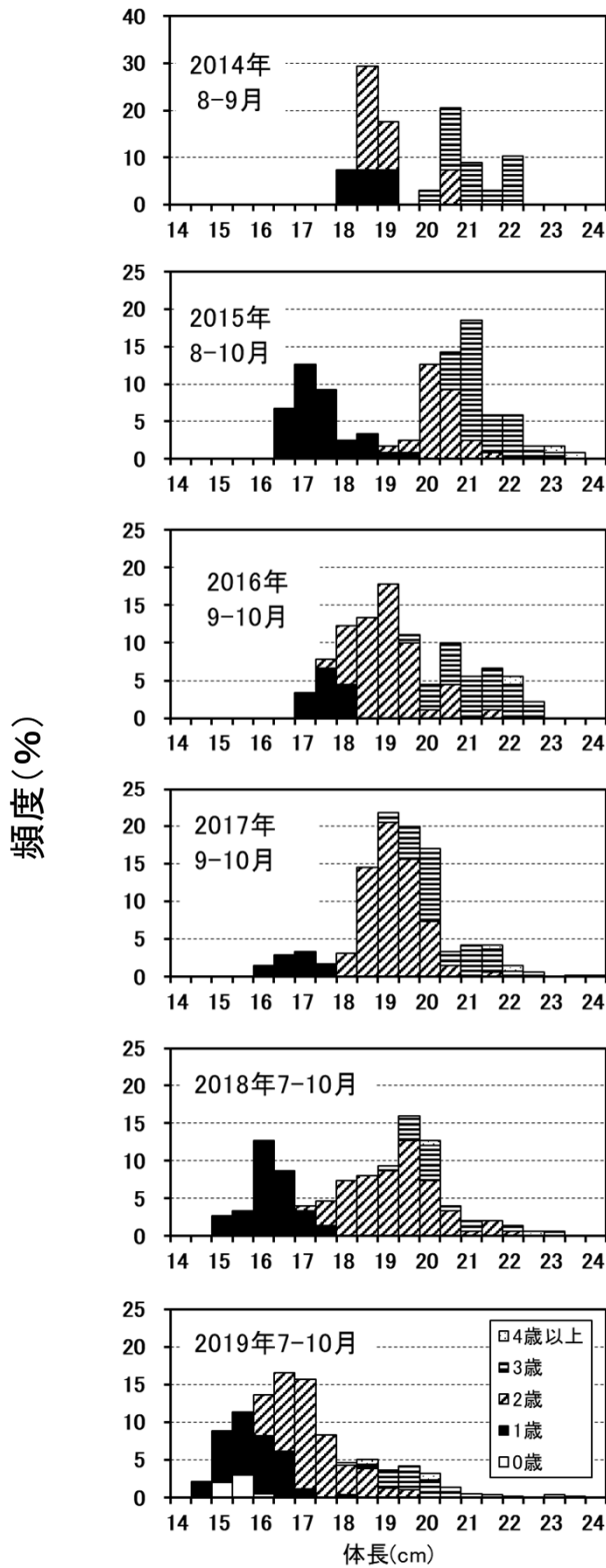


図6 まき網漁業によって水揚げされたマイワシの体長年齢組成 (水揚げ港：釧路港)

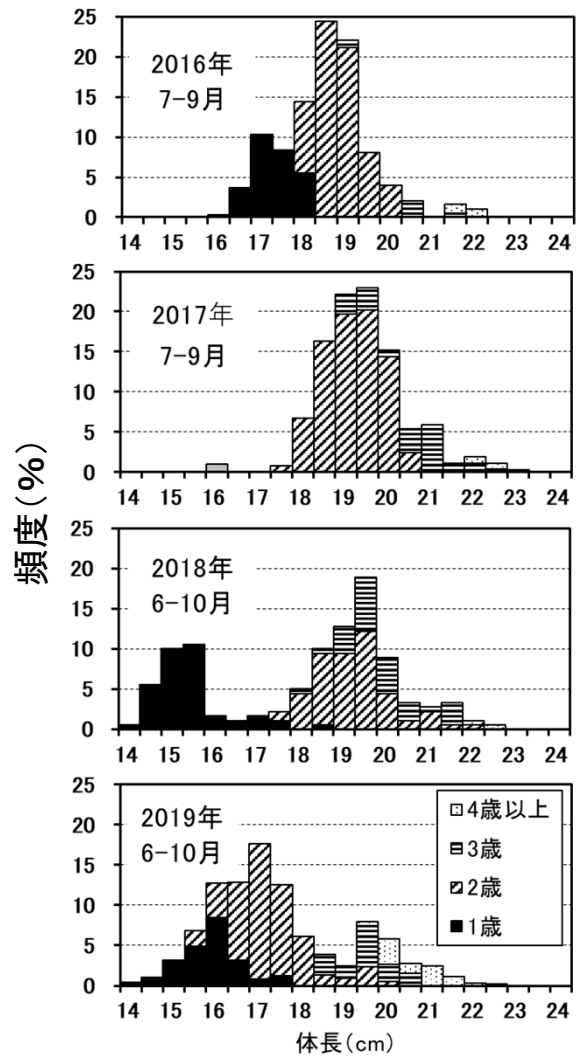


図7 棒受網およびたもすくい漁業により水揚げされたマイワシの体長年齢組成 (水揚げ港：釧路港・厚岸港)

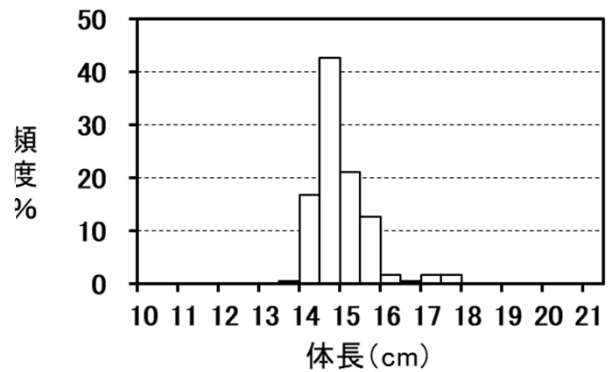


図8 2019年6月に渡島地区で定置網漁業により水揚げされたマイワシの体長組成. (資料：函館水試測定データ)

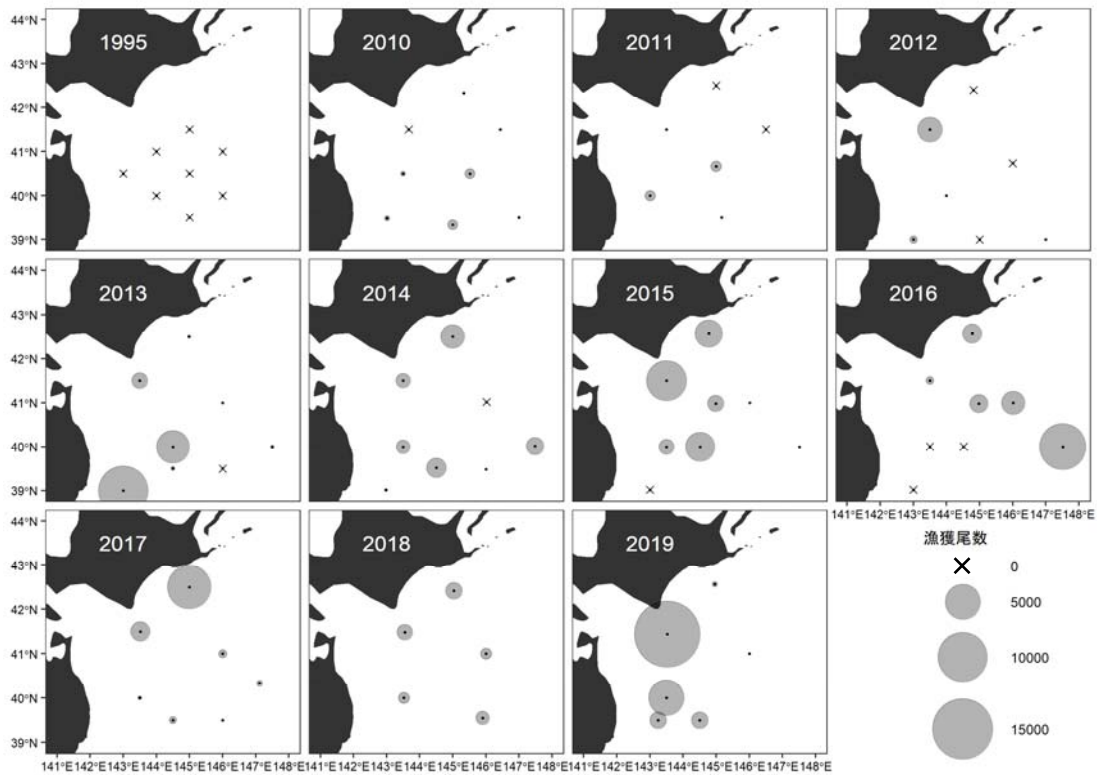


図9 試験調査船北辰丸の流し網によるマサバ・マイワシ漁期前調査（6月）におけるマイワシの漁獲尾数

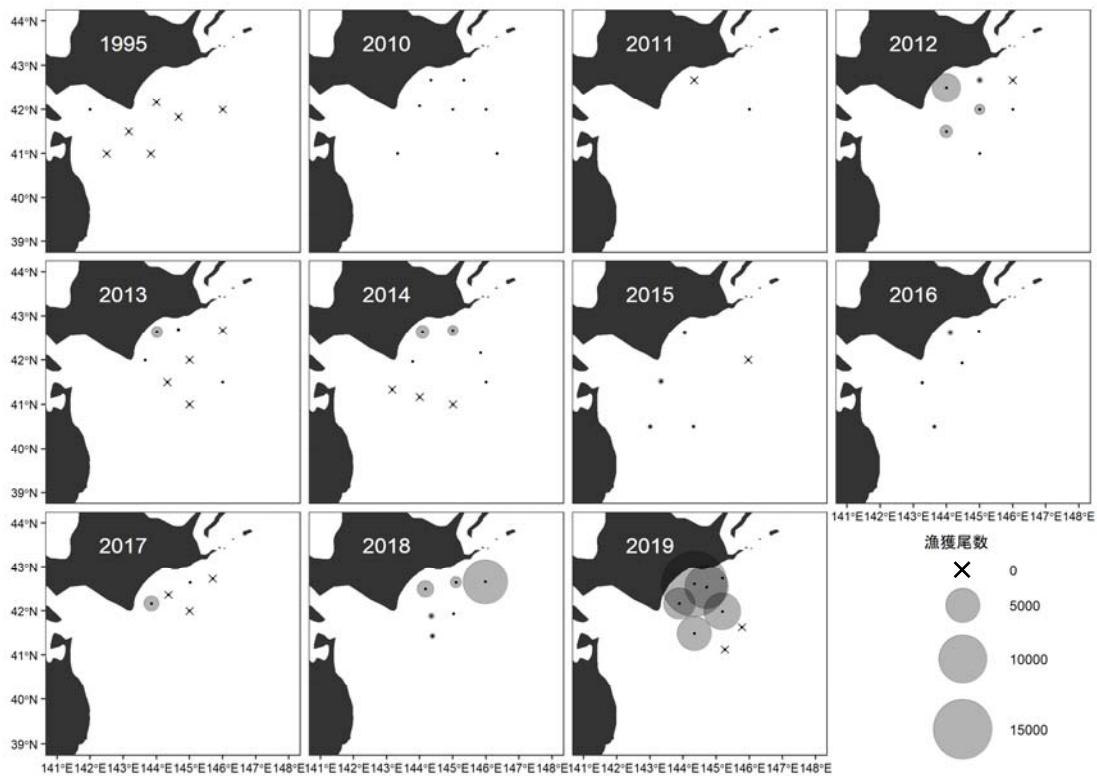


図10 試験調査船北辰丸の流し網によるマサバ・マイワシ漁期中調査（9月）におけるマイワシの漁獲尾数

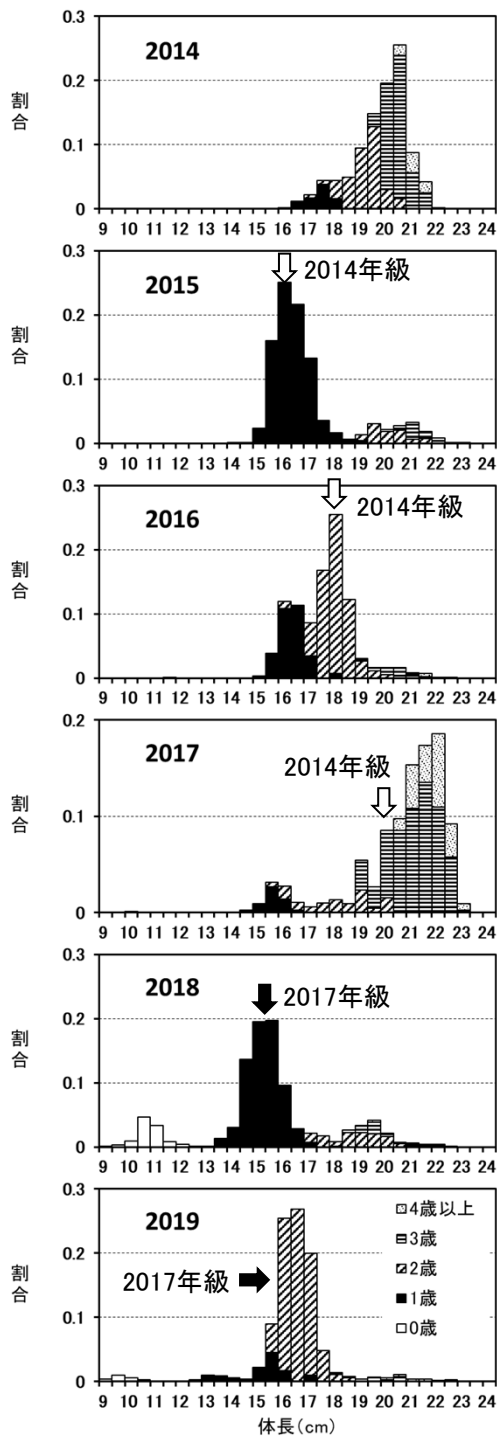


図11 試験調査船北辰丸の流し網によるマサバ・マイワシ漁期前調査（6月）におけるマイワシの年齢体長組成

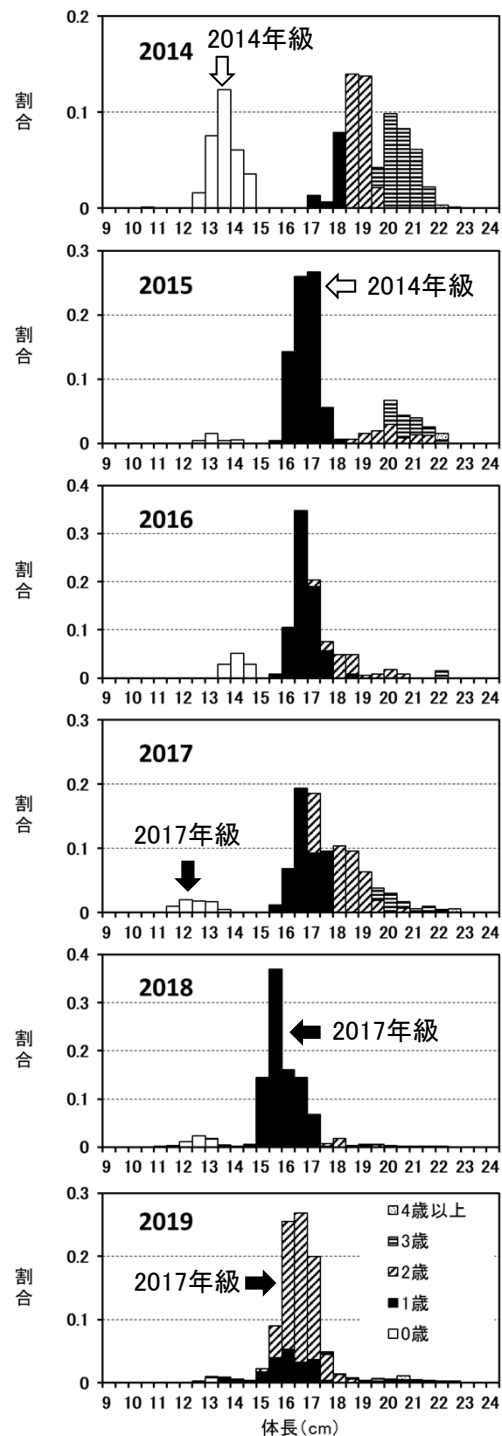


図12 試験調査船北辰丸の流し網によるマサバ・マイワシ漁期中調査（9月）におけるマイワシの年齢体長組成

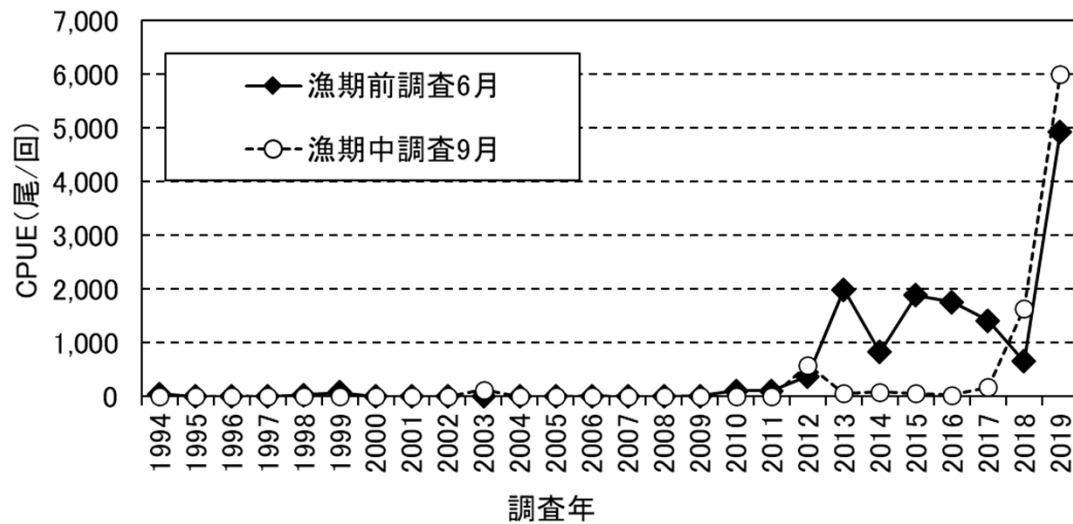


図13 漁期前調査および漁期中調査によるマイワシの1歳以上のCPUEの推移

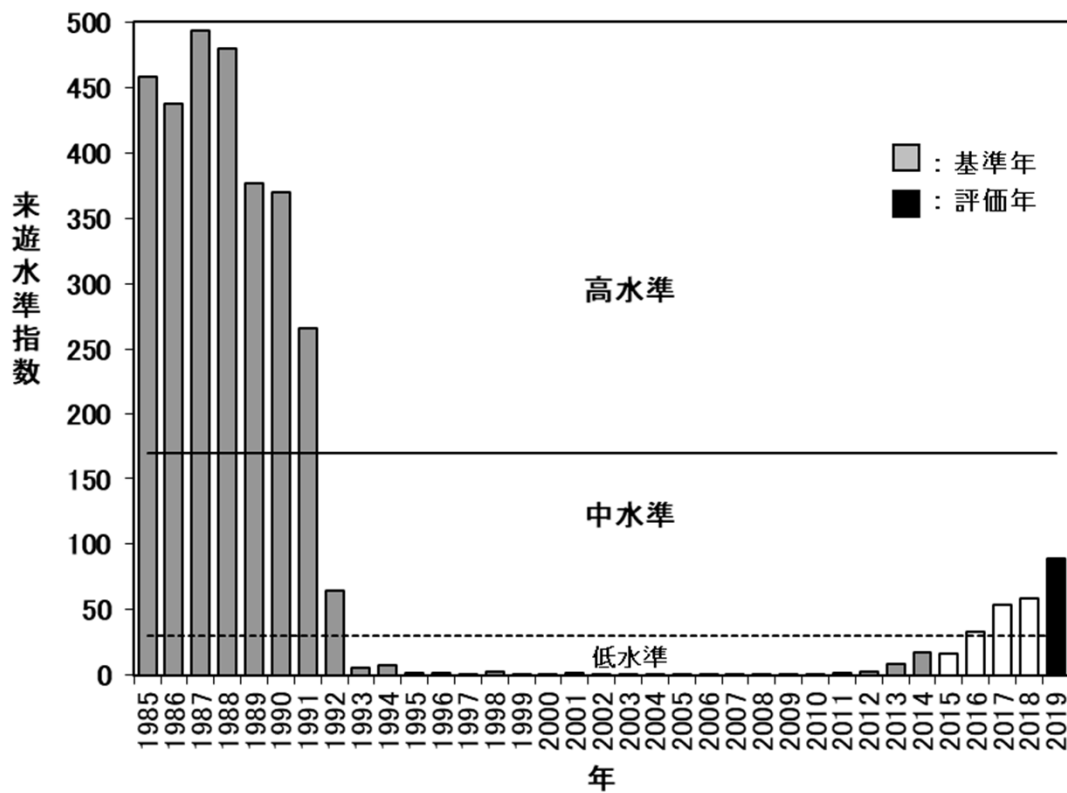


図14 北海道周辺海域におけるマイワシの来遊水準（資料は北海道周辺の漁獲量）